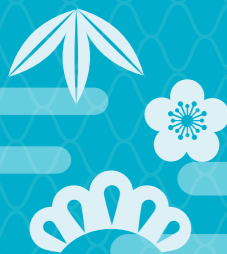


歴史散策パンフレット



ふるさと体験塾



下手の廣踊り(昭和36年 県文化財指定)



求名右衛門(ぐみょううえもん)
求名小学校のマスコットキャラクター

3 稲富神社

稲富神社の創建は宮之城島津家家臣の相良家が勧請したとされており享保2年(1717)の「宮之城記」に「久通主家臣相良権之充永利が祖より勧請すると伝う」という記載があります。御祭神は豊受大神(トヨウケオオカミ)猿田彦命(サルタヒコノミコト)天宇受売命(アマノウズメノミコト)が祀られており、旧社格は村社です。なお、境内には元は求名小学校庭に鎮座していた金吾様が遷座しており、「さつま町古木百選」のイチイガシなど6本や西南戦争ほかの戦役の記念碑があります。



稲富神社境内の金吾様



稲富神社社殿



戦役記念碑

4 植村池と白山神社

白山神社は通称「権現どん」と呼ばれています。現存する棟札から求名では最も古い神社であるとされています。神社の使いは、白蛇と白狐であるため、宮司の植村家では、鶏、犬、猫など白い動物を飼育することは禁じられていたとされています。



白山神社社殿

植村池は、周囲509m、広さ2haの池で、植村の水田5ha、上土橋の水田1.5haを潤しています。民話によると日照りに困った人々は白山権現に祈願したところ、



植村池

庄屋の夢枕にお告げがあり植村池を作ることになりました。池のおかげで豊作となったことで白山権現で盛大な祭りが開かれました。その後も何度か補修されていますが明和7年(1770)に改修された事が書かれた石碑が残されています。

5 豎山の石門(平成31年 町指定文化財指定)

豎山の石門は屋根瓦などが細部まで表現されており、豎山家の石門は総石造りの門で、屋根瓦から木鼻、家紋などの装飾まで精巧に表現されています。造られた年代ははっきりしていませんが、総石造の門は珍しいことと保存状態も良いことから町指定文化財に指定されました。なお使用されている石材は、現在の薩摩川内市平佐から馬車で運んできたことと伝わっています。



豎山の石門

6 戸子田城跡



戸子田城遠景

戸子田城は戸子田集落の高さ40mの台地にあったとされる山城です。現在の地形では三つの曲輪(くるわ、建物などが建てられた平地部分)があり北北東より西南方向へ平行に長さ約20mほどの範囲に空堀が2条

確認されています。登り口は、北側に急な坂があり一方は尾根依いに抜けています。城の規模から恒久的な城としてではなく、一時的な砦として築かれたものと考えられています。

7 長福寺跡

宝治2年(1248)渋谷一族が薩摩に下向した際に四男重茂の子、重行は鶴田城に入り鶴田氏と名乗りました。この鶴田氏の菩提寺が長福寺です。国道267号線改良工事で元の場所から現在の手公民館の庭に移転されました。昭和49年4月に町指定文化財に指定されました。



長福寺跡の古石塔群

8 小森の若宮八幡



若宮八幡の鳥居

湯田若宮八幡宮のご神体を遷座(※)された途中に一時籠ったといわれる場所です。鳥居の奥、階段をのぼると岩をくりぬいた洞窟があり、中には神像が祀られています。周囲には、榊などの古木などが残っています。また隣接地には、音泉山薬師寺と薬師温泉があります。
※遷座(せんざ)：一時的に移動させること

1 信徳寺(金剛山)

明治9年(1876)に信教の自由令が出されると、宮之城では明治11年(1878)8月、浄土真宗の宮之城説教所が開設されました。この説教所は明治18年(1885)に「信教寺」となり、求名村民も当初、信教寺の門徒となりましたが大正8年(1919)6月には区民一丸となった寺院建立運動により現在の「信徳寺」本堂が建立されました。また昭和12年(1937)には鐘楼門が落成しました。



信徳寺の鐘楼門と本堂



上棟式 大正8年6月1日建立

2 ある町医者の記念館と南の家



故 前原 則知氏

前原則知氏は伊佐市曾木の出身の医師で大正15年(1926)に求名で開業しました。区民には「求名の赤ひげ先生」として愛されました。前原氏の旧医院跡に建てられた「ある町医者の記念館」と前原氏のご子息の邸宅は建築家「堀部安嗣」のデビュー作品です。全国から多くの若い建築家が来所しにぎわっています。

9 球磨陣

球磨陣は標高255mの丘で「くまじんがおか」とも呼ばれています。求名と鶴田が一望できる景勝の地です。

応永8年(1401)の鶴田合戦の時相良氏が救援した史実があることや、球磨陣の中腹、旧球磨街道のわきに「相良どん墓」と呼ばれる五輪塔があり宝徳4年(1452)の銘があることなどから周辺でも陣地などが築かれるような重要な場所であったと想定されています。



相良どん墓



球磨陣遠景

10 北平の用水路と二墓石

求名北部、字「ゼミ」の田の中に、同地水田7町歩の開田にまつわる夫婦の墓石があります。墓碑にある銘文は以下の通りです。

「行溪道清信士 元文元年(1736年)
丙辰七月五日
梅林妙香信女 元文元年丙辰四月二日」



北平の隧道

この墓石の夫婦が隧道を掘って水路を作り開田し、その遺言によりこの地に埋葬されたと伝えられています。水路は北平川に取入口をつくり、岩山に3本の隧道(トンネル)をひとが通れるほどの大きさに掘っており人力で約90mの隧道を掘りぬきました。水路完成後は、里の人々の水田にも水を引くことを許し約1200mの水路が開かれ多くの水田が開田されました。



北平の二墓石



北平の水田



11 旧球磨街道(菱刈街道)



旧球磨街道

この道は、天正15年(1587)豊臣秀吉が川内から大口に向けて通過した道でした。この街道は伊佐市境を人吉へ越えて肥後に通じています。

江戸時代後半に堀之内良眼坊らによる川内川の開削が行われる前は菱刈七郷の農民たちが宮之城の藩蔵に年貢米を馬の背に乗せて運んだ道でした。

境田城跡

境田城跡は室町時代の初め応永2年(1395)、伊予国から来た河野氏が城主であったとされています。立地は旧球磨街道の南側に位置する面積約1haの範囲の山城で南北に3本と東西に一本の堀切で区画されています。それぞれの曲輪には「西の丸」「本丸」「スヌケダ丸」とよばれていました。応永8年(1401)の鶴田合戦で鶴田氏が敗れると、廃城になったものと考えられています。



境田城遠景

比叡神社

創建の時期は不明ですが祭神は大国主命(おおくにぬしのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと)、大物主命(おおものぬしのみこと)が祀られています。社殿に遺されていた享保2年(1717)の棟札によると、古川氏が山王権現を祭祀したものであると書いてあります。

また、社殿には島津金吾歳久、馬頭観音、阿弥陀如来像も安置されています。地域の人々により今も大切にされている神社です。



比叡神社鳥居



比叡神社境内



山伏塚

下狩宿の東の台地に立っている石塔です。大きな自然石で門柱を建て、奥に高さ約1mの五輪塔が1基あります。